

新着図書からおすすめの5冊

毎週火曜日は、新着図書の配架日です。本日7月23日（火曜日）の新着図書の中からおすすめの本を紹介します。インターネット予約・貸出は、7月30日（火曜日）からです。

『「幸せ」の経済学』

橋木 俊詔／著、岩波書店／刊、請求記号：331 / Ta,13

内容：「定常経済時代」における「幸せ」とは何か。古今東西の「幸せ」についての考え方を検討し、1万人を超えるアンケート調査の結果をはじめ多くの内外の統計データを基にして、経済学の立場から縦横に論じる。

著者紹介：1943年兵庫県生まれ。ジョーンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。同志社大学経済学部教授。著書に「日本の経済格差」「課題解明の経済学史」など。

『標本の本』

村松 美賀子 ほか／著、青幻舎／刊、請求記号：460.7 / H,99

内容：約260万点の学術標本や教育資料がそろう京都大学総合博物館。膨大なコレクションの中から、動物、植物、化石、鉱物などの自然史に関わる標本を紹介する。アカネズミの捕獲から標本製作までの様子も収録。

『日本の町並み250』

ウエスト・パブリッシング／著、山と溪谷社／刊、請求記号：521.8 / N,77

内容：北海道・函館、群馬県・桐生、三重県・伊勢、沖縄県・竹富島…。日本各地にある重要伝統的建造物群保存地区、城下町、宿場町、商家町、門前町、港町など250カ所を紹介する。データ：2013年4月現在。

『耕せど耕せど』

伊藤 礼／著、東海教育研究所／刊、請求記号：626.9/ I,89

内容：自転車で東京を、日本を巡察していた伊藤礼翁は、実は農場運営者だった。クワイをはじめ、ニッポンの食料自給率に貢献する各種作物を生産し、“伊藤式農法”確立をめざす奮闘の日々を綴る。『望星』連載をもとに単行本化。

『チーズと文明』

ポール・キンステッド／著、築地書館／刊、請求記号：648.1/ Ki,42

内容：チーズとその作り手たちが通り抜けてきた歴史の隘路を丹念にたどり、国王や貴族、政治体制の側からしか見てこなかった西洋史を、もういちど立体的にとらえ直した西洋史解説書。

著者紹介：ヴァーモント大学食物栄養学部教授。同大学内ヴァーモント職人作りチーズ研究所理事。乳産品化学とチーズ製造に関して論文を執筆。様々な研究会も開催。研究と教育において高い評価を受ける。